

**PRESS RELEASE**

<https://www.okiu.ac.jp>



学校法人 沖縄国際大学

事務局広報課

TEL : 098-893-7629(直通)

OKIUPR-2026-001

報道関係者 各位

2026年4月20日

沖縄初の旧石器時代の石英製剥片石器について  
沖縄国際大学考古学研究室による普天満宮洞穴遺跡発掘調査成果

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より沖縄国際大学の教育・研究活動について格別のご協力を賜り心より厚く御礼申し上げます。

この度、考古学研究室による普天満宮洞穴遺跡第4次発掘調査成果の説明会を開催いたします。普天満宮は琉球国王も参詣したとされる由緒ある神社で、琉球八社のひとつとされています。考古学研究室では、2022年度（第1次）から普天満宮社殿背後の洞穴内を発掘調査しており、2023年度（第2次）以降、約3万3千年前以降の人類活動の痕跡を確認することができました。

2025年度（第4次）発掘調査及び2024年度（第3次）土壌の分析結果、①約18000～17000年前の層から石英製剥片石器が出土しており、イノシシ骨にカットマークをつけた道具が判明したこと、②これが明らかに旧石器時代にさかのぼる沖縄初出土の剥片石器であること、③洞内だけでなく洞外にも旧石器時代における人類の活動痕跡が確認されたこと、④洞外のトレンチでも、約24000年前の層から炉跡が2基検出されたこと。⑤約24000年前～約9000年前の間にある層からこれまで確認されなかった黒色片岩の石器石材が出土したこと、⑥巨礫の下から炉跡、石英、人骨が出土し、人骨は約9000年前のものであること、⑦この約9000年前と約3000年前の間に、ノッチが崩落するような巨大災害があった可能性のあること、⑧リュウキュウジカなどの絶滅は、約33000年前よりも以前であり、その人類活動との間に間層があることから、リュウキュウジカなどの絶滅後に人類活動が始まっていること、など多数の成果がありました。県内でも最古級である人類活動の年代的な変遷と具体像が見え始めており、琉球列島の人類史を考えるうえで、極めて重要な遺跡のひとつであることが再確認されました。今後も研究・分析を継続し、その実態を解明する予定です。

報道関係者の皆様におかれましては、ご多忙のところ誠に恐縮ですが、取材していただけますと幸いです。

記

1. 日時：令和8年4月27日（月）13時30分～15時30分 **※情報解禁は説明会終了後となります。**
2. 場所：沖縄国際大学 5号館416教室
3. 説明者：沖縄国際大学総合文化学部社会文化学科 新里貴之 t.shinzato@okiu.ac.jp

以上、よろしくお願いいたします。

ご参加可能な場合は、大変お手数ですが4月24日（金）までにその旨ご連絡くださいますようお願いいたします。（FAXでのご連絡の場合は、下記ご記入の上、ご返信ください。FAX：098-893-0015）

謹白

御社名：

御出席者名：

送信枚数  
本状含め3枚

【送信元】

学校法人 沖縄国際大学 事務局広報課

〒901-2701 沖縄県宜野湾市宜野湾二丁目6番1号

TEL：098-893-7629(直通)／ FAX：098-893-0015／ E-mail：pubchr@okiu.ac.jp